



黒沢一成議員
(未来クラブ)

鉄道復旧、将来の負担では

急激な負担増は受け入れられない

問 本町を含めた沿線市町、県は鉄道の復旧を目指しているが、通勤には車を利用するのが一般的。主に公共交通を利用する学生、高齢者には停留所が多く、徒歩での移動が少なく、本数が多いバスの方が利用しやすいのでは。

佐藤町長 鉄道とバス路線には、それぞれの役割がある。鉄道は定時性、速達性、大量輸送、そして安全性の面で優位。被災前と同様に鉄道が復旧され、バス路線は堅持されることを目指す。

問 利用促進の手立てはあるのか。将来的に自治体にとって負担にならないのか。

佐藤町長 県・沿線4市町・JR・学識経験者で「利用促進検討会議」を組織している。それぞれがアイデアを持ち寄り、利用者アンケートなども実施して検討を重ねたが、実効性が見込める手立ては難しいのが実情。

鉄道復旧を目指し、それを維持していくため、町民のマイレール意識醸成を図っていききたい。鉄道が復旧された場合、運営をどこが担うにせよ、将来的には町の負担は避けられないと考えられるが、急激な負担増は受け入れられない。



運休が続くJR山田線（織笠地区）

豪雨対策

沢の排水管は余裕あるか

流量を20%増しで設計

問 豪雨災害が年々多くなっている。本町でも、いつ起こってもおかしくない。あらかじめできる対策は排水環境を良くすることである。

一方、復興のため、高台団地・道路の造成、町中のかさ上げを行っている。そこで問うが、

- ① 土木設計において使う雨量のデータはいつのものか。
- ② 西川は断面積を倍にするようだが、境田の沢の排水は。
- ③ 高台道路を横切る沢の排水管の口径は余裕がある設計をしているか。
- ④ 高台の造成地、かさ上げ地は降雨の排水が心配ない設計となっているか。

配ない設計となっているか。

⑤ 船越駅南側の沢の排水管に余裕がないと地区住民は心配しているが、改良できないか。

佐藤町長

- ① 岩手県などが作成している最新のデータを使用している。
- ② 高さ1・5メートル、幅1・2メートルであり、ほぼ現況と同じ断面である。
- ③ 流量を20%割り増しして設計している。
- ④ スムーズに流れるように設計している。
- ⑤ 過去の災害の有無など、現地状況を確認して判断する。

その他の質問

- ◆ 振り込め詐欺の状況は
- ◆ 支援の記録をまひのり